

An aerial photograph of the Awaji Nature Lab & Resort. The foreground shows a large, open area with a dirt path, a small white dome-shaped building, and a large wooden building with a thatched roof. There are several greenhouses and other structures scattered throughout the landscape. The middle ground is filled with dense green trees and vegetation. In the background, a range of blue mountains stretches across the horizon under a clear sky.

農業の関係人口づくりに向けた取組について

Awaji Nature Lab & Resort

野菜が主役の 農家レストラン

はる さん さん
陽・燦燦



施設概要：農家レストラン（100席）・駐車場（30台）
営業時間：11:00～18:00 定休日：水曜日
施工会社：（設計監理）株式会社坂茂建築設計（施工会社）株式会社木々のや

CONCEPT

豊かな自然の中で愉しむ、
野菜が主役の農家レストラン

豊かな自然に囲まれた心安らぐ空間で、
淡路島の自社農園の野菜や近隣農家のこだわりの
食材の持ち味を最大限にひきたて、
洗練した野菜が主役のヘルシーなお料理を、
大切な時間とともに提供します。







農体験した方だけが滞在できる特別な場所 自然循環型滞在施設

Awaji Nature Lab & Resort 会員として
「ふれる」「まなぶ」「たべる」を通じて、自然の豊かさを体感

2024.8オープン 管理棟 (140m²) 講習棟 (100m²)
2025.4オープン予定 滞在型施設 (50m²/11棟) 駐車場 (50台)

世界の第一線で活躍する建築家 9名が設計



ブランドデザイン・ランドスケープデザイン：合同会社HOC



ブランドデザイン・ランドスケープデザイン：合同会社HOC

過ごしかた（イメージ）

1 日目

13:00 チェックイン

ーオリエンテーション・施設案内
ー庭の畑でハーブ積み・ハーブティ作り

14:00 畑・ワークショップ棟にて体験

ー季節野菜・果樹に応じたプログラム

17:00 滞在施設での夕食づくり

18:00 夕食

2 日目

7:30 朝の畑しごと体験・ヨガ

8:30 朝食・ピッツァづくり

10:00 昼の畑しごと・ワークショップ

11:00 チェックアウト

12:00 昼食／農家レストラン陽・燦燦

Awaji Nature Farm

Awaji as terroir 土地を味わう自然循環型ワイナリー

Location



兵庫県淡路市野島常盤字椎ノ木ケ尾／3.3ha



Awaji Nature Farm

Awaji as terroir 土地を味わう自然循環型ワイナリー

- ・ブドウの栽培からワインの醸造まで有機農法を導入（JAS取得に向けて申請予定）
- ・淡路島で運営する自社飲食施設や連携する水産加工業者からの食品残渣を堆肥化した肥料でブドウ栽培を行う循環型農業を推進
- ・日本のヤマブドウを主体に品種改良して作られた、日本でも有数の地でしか栽培されていない特別なブドウ品種「りざん」「龍王」を採用
- ・将来的には、農園の見学ツアーやワインテイスティングイベントを実施し、観光農園としても開放予定

ワイナリー指導者

自然派ワイン醸造家 ラ グランドコリーヌジャポン 大岡 弘武氏

ボルドーBTSA（醸造栽培上級 技術者養成校）に入学し、ワイン全般を学ぶ。その後、ローヌ最大手のワインメーカーGUIGAL社の栽培責任者を務める。2002年にはフランスにおける日本人個人ワイナリーのパイオニアとして、会社設立。2016年に帰国し、岡山県でブドウ栽培とワイン醸造を開始。耕作放棄地を活用し、一般の方々がぶどうの栽培からワインの醸造までの活動を推進する一般社団法人「おかやま葡萄酒園」を岡山県のぶどう育種家 林慎悟氏とともに設立。



企業が農業に関わる仕組みづくりに向けて

Wellness Farm Club

「国民総農業運動」のビジョンのもと、企業や組織、学校単位でそれぞれの環境に合わせて「農業」に関わりを持ち、「農」と「食」の学びと実践を通じた心身の健康づくりと、地域の多様な人々が集い交流するコミュニティのプラットフォーム

1.知る

研修/セミナー

- (農作業系)
 - ・ 自然農法/有機農法
 - ・ 生活園芸
- (知識/食育系)
 - ・ 食と健康 ・ 自然や環境

2.行く

農業体験/フィールドワーク

- ・ 土づくり、農作業体験
- ・ 育てる→収穫→食→たい肥
- ・ 農業ボランティア
- ・ 健康効果/リラクゼーション効果

3.食べる

料理/イベント

- ・ 食べる楽しみ、コミュニティ形成
- ・ 郷土料理文化・健康レシピ
- ・ 生産者とのつながり
- ※一部野菜定期便 等



企業の課題

生活習慣病やメンタル不調など、心身の健康に不安のある社員を抱える中で、社員ひとりひとりのWell-beingの実現が企業の成長につながる。
社員の心身の健康増進へ向け、有効な健康経営を推進する策が必要。

健康の三大要素

農業がもたらす効果

運動		農作業	太陽を浴び、土に触れ、自然の中で体を動かす
栄養	=	食事	収穫した農産物を調理し、食すこと 食生活を見直すヒントが得られる食育プログラム
休養		睡眠	心地よい疲れの中で良質な睡眠に

企業が農業に関わることで社員の健康づくりを実現し、
健康経営、環境経営、SDG'sを推進。
企業価値の向上へ

1.知る



2.行く

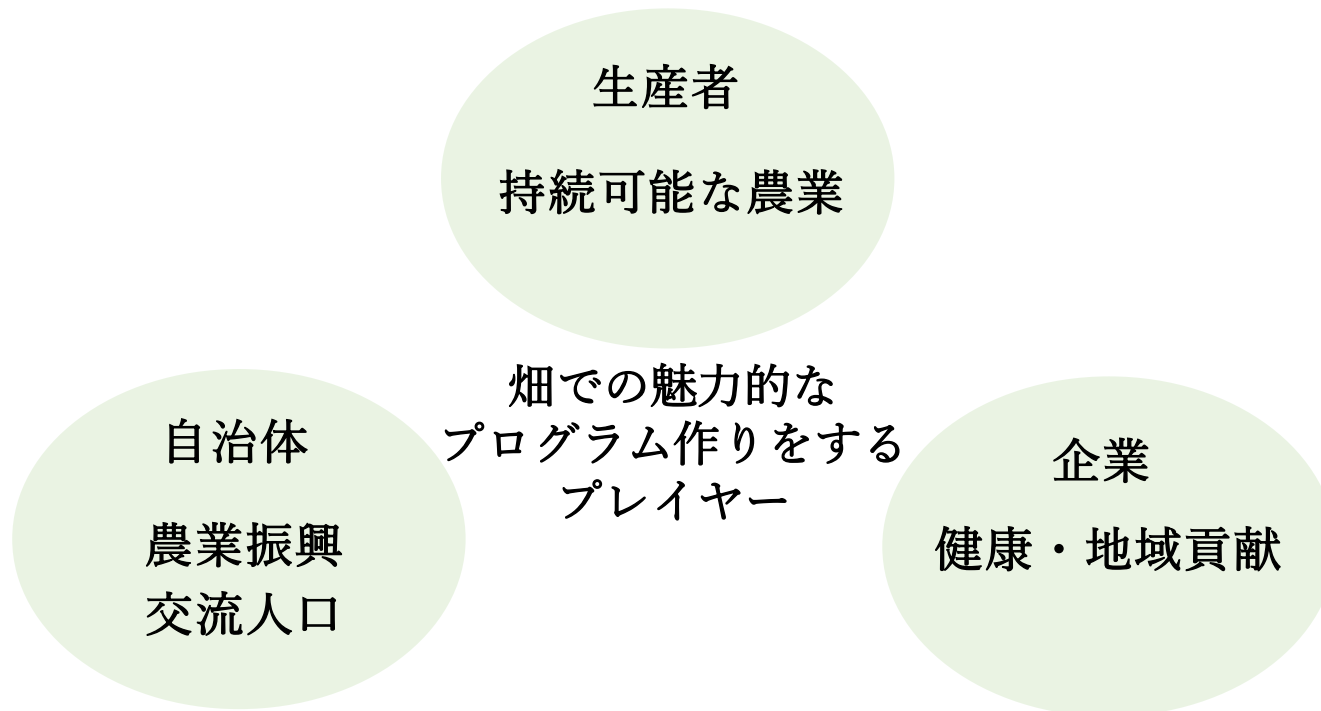


3.食べる



畑を新たなコミュニティの場として、企業や学校など地域の多様な主体が自ら食べるものを育て料理し食すことで、Well-beingな地域づくりへ

畑を「美味しい」、「楽しい」Well-beingな地域づくりの拠点に
農繁期には、企業や学校が地域の農業の支え手に



農業にエンターテインメント性を！
農業を「楽しい」、「美味しい」健康サービス産業へ！！

一般社団法人Well-being in Natureのご紹介

医は食に学び 食は農に学び 農は自然に学ぶ

ウェルビーイングな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

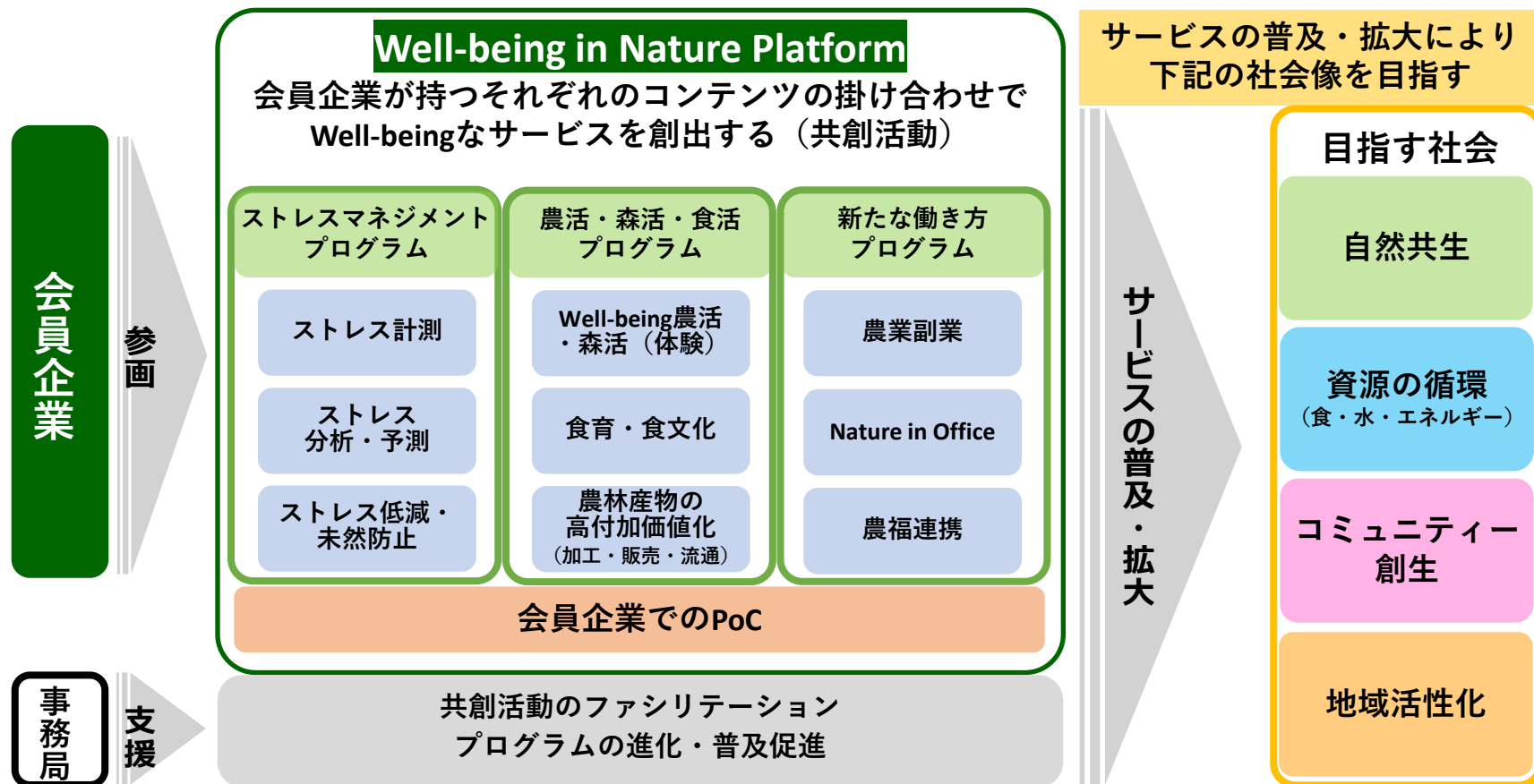


設立目的

- 医農福・産官学連携で「自然と共生し健康で幸福度の高い働き方・生き方」を創造し、地方創生に貢献する。そして、自然と共生した自分らしい豊かな暮らしの実現を目指す。
- 農山漁村の自然と園芸が持つ健康効果を活用した心身ともに健康なワーク・ライフ・スタイルの開発・普及
- ストレス計測技術の研究開発促進とその成果を活用した企業の健康経営サポート
- 健康な食づくりと食育、ならびにフードロス・フードマイレージの最小化に向けた仕組みづくりの促進



Well-being in Nature Platform



Well-being in Nature Platform

会員企業が持つ強み・コンテンツと興味の方向性

ストレスマネジメントプログラム

ストレス計測

- イブケア
- (順天堂大学：千葉先生)
- BG (環境ストレス)

ストレス分析・予測

- イブケア
- 日本生命
- (順天堂大学：千葉先生)

ストレス低減・未然防止

農活・森活・食活プログラム

Well-being農活・森活 (体験)

- パソナグループ
- 日本生命
- ONE SLASH
- バイオマスアグリゲーション
- 自給自足カレッジ
- マイファーム
- BG
- 類設計
- ヤンマーホールディングス
- わくわくパーククリエイト
- JR東日本 (予定)

食育・食文化

- パソナグループ
- KAGOME
- マイファーム

農林産物の高付加価値化 (加工・販売・流通)

- パソナグループ
- TOPPAN
- 幸南食糧
- 宮城ヤンマー

新たな働き方プログラム

農業副業

- パソナグループ
- TOPPAN
- JR東日本 (予定)

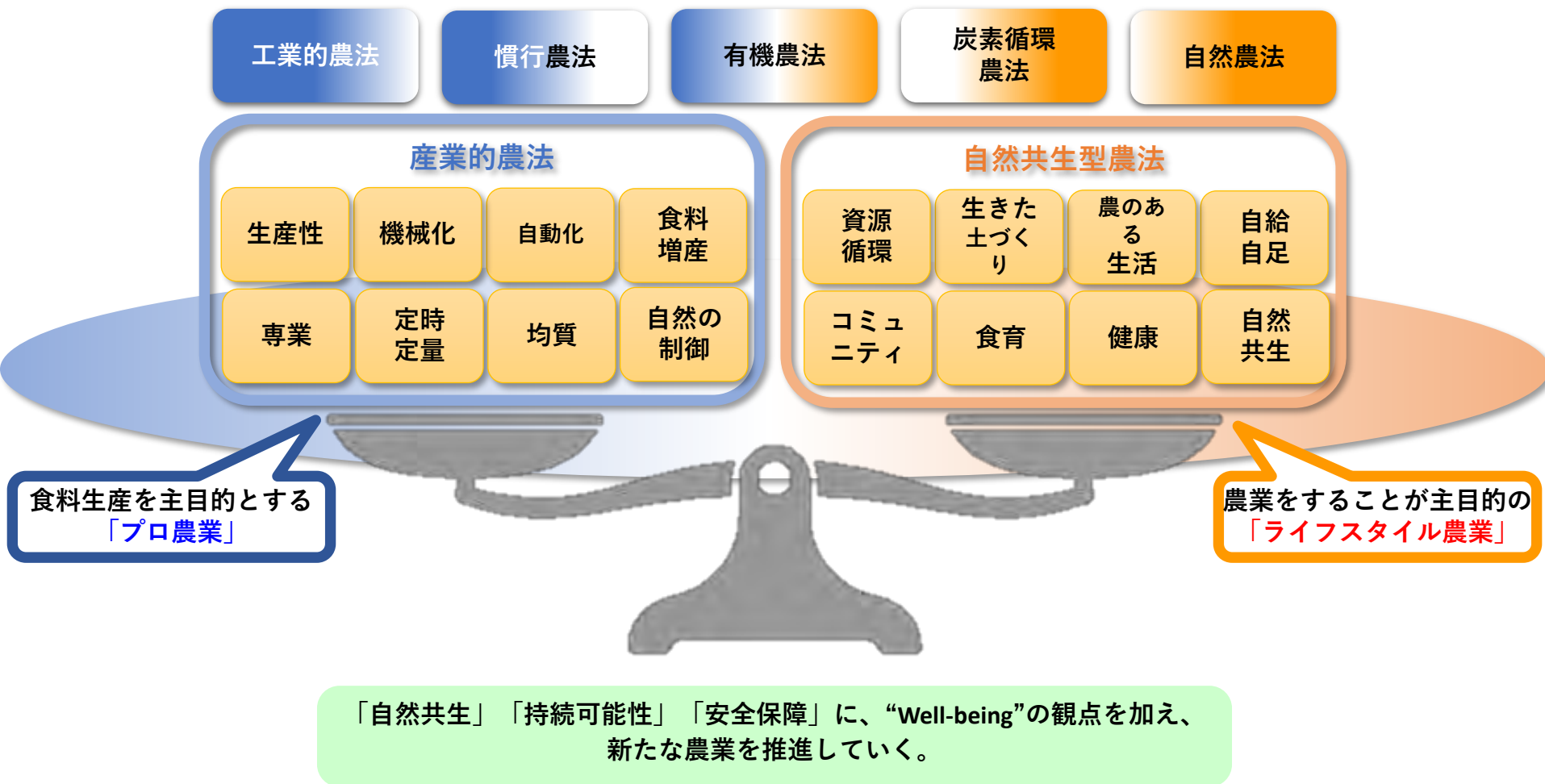
Nature in Office

- オカムラ

農福連携

- パソナグループ
- キャピタルブレイン
- ヤンマーホールディングス

Well-being in Nature が考える新たな農業



Well-being in Nature Service



1. 土壌形成資材

誰もが安心してムリなく
持続可能型農業へシフトできる資材

- ・ 持続可能型農業へのシフト
- ・ 農業の経済性の改善
- ・ 人類と地球のウェルネス向上



2. 発展型カーボנקレジット

持続可能型農業の価値を
産業を超えて共有する仕組み

- ・ 生産者のあらたな収入
- ・ 生産者・企業のブランディング
- ・ 産業を超えた価値循環の強化・拡大



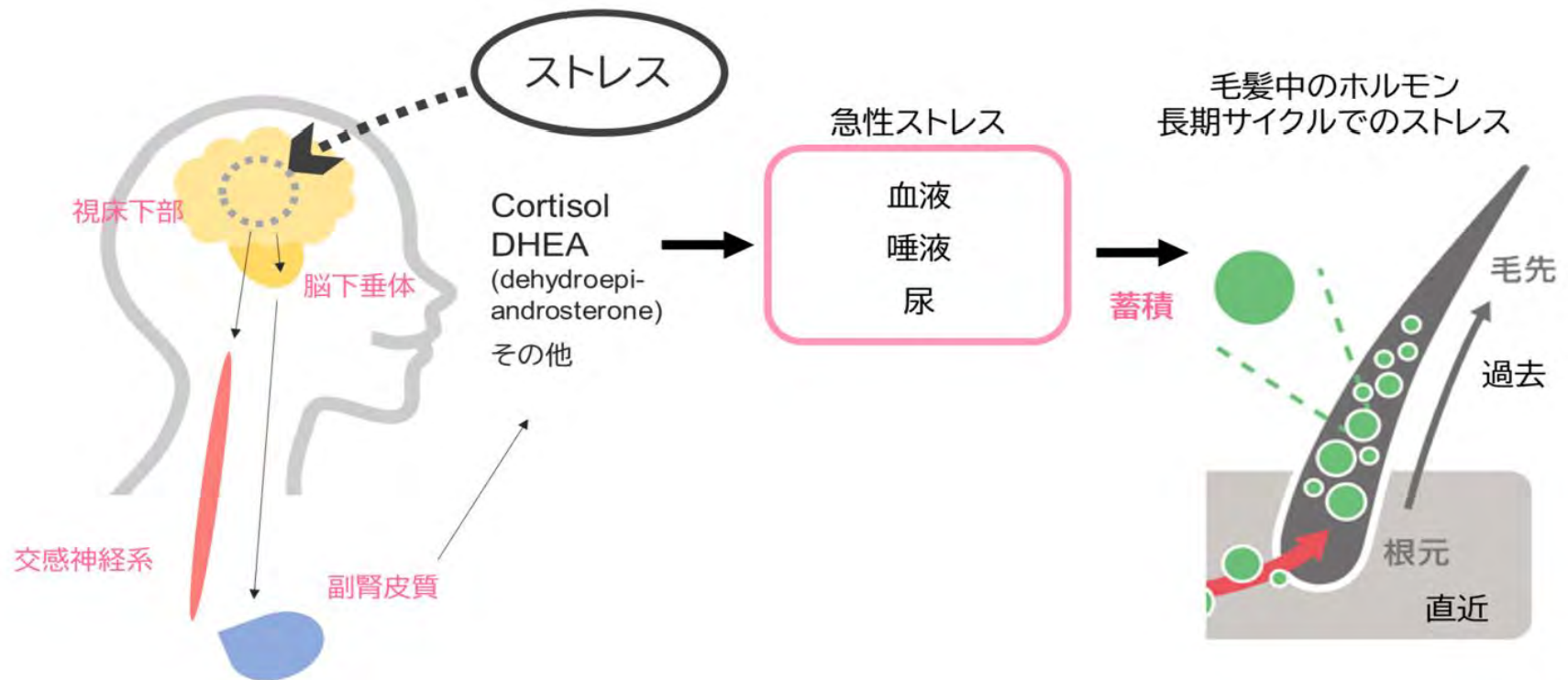
3. あらたな視点の野菜流通

オーガニック野菜の
あらたな価値基準

- ・ 人類と地球のウェルネス向上
- ・ 野菜の付加価値向上
- ・ 農業のブランディング



農山漁村の自然と園芸が持つ健康効用を評価できる仕組み



顧問



顧問 石川善樹

予防医学研究者、博士（医学） 1981 年、広島県生まれ。東京大学医学部健康科学科卒業、ハーバード大学公衆衛生大学院修了後、自治医科大学で博士（医学）取得。公益財団法人 Wellbeing for Planet Earth 代表理事。「人がよく生きる（Good Life）とは何か」をテーマとして、企業や大学と学際的研究を行う。近著は、フルライフ（NewsPick Publishing）、考え続ける力（ちくま新書）など。

Twitter: @ishikun3

顧問 長野麻子

愛知県安城市生まれ。岡崎高校、東京大学文学部フランス文学科卒。
1994 年に農林水産省に入省し、林野庁企画課、フランス留学、バイオマス・ニッポン総合戦略検討チーム、国際調整課、郵便通出向、水産庁水産経営課、食品環境対策室長、大田官房報道室長、新事業・食品産業政策課長などを歴任。2018 年から 3 年間林野庁木材利用課長として、木材利用を促進するため「ウッド・チェンジ」を各地で呼び続ける。豊かな森を次代につなぐことを勝手に天命と感じ、2022 年 6 月に早期退職。同年 8 月に日本の森を盛り上げる株式会社モリアゲ (<https://mori-age.jp>) を設立。



顧問 都築富士男

大学卒業後ダイエーに入社。アメリカ企業とダイエーの合併会社の取締役に就任。その後、コシビニエンス・ストア・ローソンの代表取締役に就任。倒産寸前のローソンを再建し、当時 80 店舗しかなかった店舗数を、在籍中 3000 店舗にまで拡大。現在、都築経営研究所 代表取締役として、コンサルティング、企業顧問、講演などを中心に活躍中。2020 年、一般社団法人 SDGs ソーシャルデザイン協会を立ち上げ、様々な社会課題解決の仕組みを作り遂行していく日本企業の道標となるべく活動を開始。2021 年には「SDGs 志国連合国」を建国し、人口減少、高齢化が進む四国の活性化と取り組んでいる。

顧問 前川 守

1958 年 2 月 17 日鳥根県出身。東京大学文学部第 4 類社会学科卒業。東大文学部社会学科在学中に国家公務員上級甲種試験（経済）を受け、1982 年 経済企画庁入庁。旧経済企画庁と内閣府で数々の職務を歴任し 2018 年に退官。現在はヤンマーホールディングス株式会社顧問。

